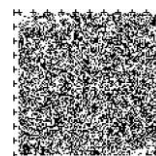


## 第5章 食育推進計画



## 1 基本方針

---

本市の現状と課題を踏まえ、基本理念と全体目標の実現に向けて本計画を推進するための基本的な考え方を、次のとおり定めます。

### **基本方針1** 生涯を通じた切れ目のない食育を推進します

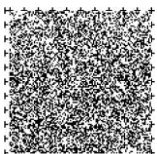
生涯に渡って心身ともに健康であるため、乳幼児から高齢者まで、それぞれのライフステージやライフスタイルに応じた食育を推進します。

### **基本方針2** 持続可能な食を支える食育を推進します

私たちの食生活は自然の恩恵の上に成り立っていることから、食べ物を大切にし、食の安全性や環境に配慮した食育を推進します。また、農業体験や地産地消の推進を通して人と人とのつながりを深めるとともに、伝統的な食文化を次世代に継承する取組みを推進します。

### **基本方針3** 「新たな日常」に対応した食育を推進します

ライフスタイルの変化やデジタル技術の進展などの「新たな日常」に対応し、幅広い世代に対してより効果的に食育を推進します。



## 2 目指す方向

---

### 目指す方向1 健康なからだをつくる食生活の推進

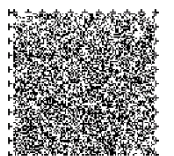
栄養バランスのよい食事と規則正しい生活習慣を通じて、健康なからだづくりを図ります。

### 目指す方向2 豊かな心を育む食生活の推進

家族や友人と楽しみながら「食」について学び、豊かな心を育む取組みを推進します。

### 目指す方向3 食に対する正しい知識と理解の促進

食の安全性や環境負荷について正しく理解し、健全な食生活を実践する取組みを推進します。



### 3 分野別の取組み

#### 目指す方向1 健康なからだをつくる食生活の推進

分野1 栄養・食生活 ※P64 第4章 健康増進計画「1 栄養・食生活」と同じ

#### 目指す方向2 豊かな心を育む食生活の推進

##### 分野2 食文化の継承

###### (1) 現状と課題

- ◆新型コロナウイルス感染症の影響により複数の体験事業等が中止となり、食文化を伝える機会が減少しました。
- ◆「伝えたい料理がある市民の割合」は、前回調査よりも減少し、目標値に達しませんでした。農林水産省の「食育に関する意識調査（令和5（2023）年3月）」においても、「地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている国民の割合」は、目標値を下回っており、今後食文化を伝えるためには、家庭、学校、地域で伝える機会が必要との回答が多くを占めていました。手作りに加えて市販のものを活用するなどして、気軽に楽しみながら伝統や食文化を継承するとともに、家族や人と人とのつながりを深める取組みが必要です。（P47・表15）
- ◆農林水産省の「令和4（2022）年度和食文化に関する意識調査結果（令和5（2023）年3月）」によると、40代以下の女性の多くはオンライン上のレシピ（静止画、動画、SNS等）を利用しています。本市では、食育月間に合わせた広報くさへの特集記事の掲載や、市の公式チャンネルへの郷土料理の動画の掲載など、郷土料理等について魅力を発信しています。今後も、SNSの活用など、有効な伝え方についてさらに検討が必要です。
- ◆朝食または夕食を家族と週11回以上食べている人は、小学生は半数を超えています。中学生では4割となっています。単身世帯や核家族が増加し、家庭環境が多様化している中で、家族との共食が難しい家庭もあると考えられます。誰かとコミュニケーションをとりながら食事を味わう楽しさを伝えるとともに、家族だけでなく、友人間や地域における共食についても、促していく必要があります。（P101・図59）

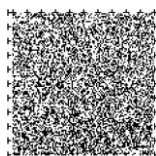
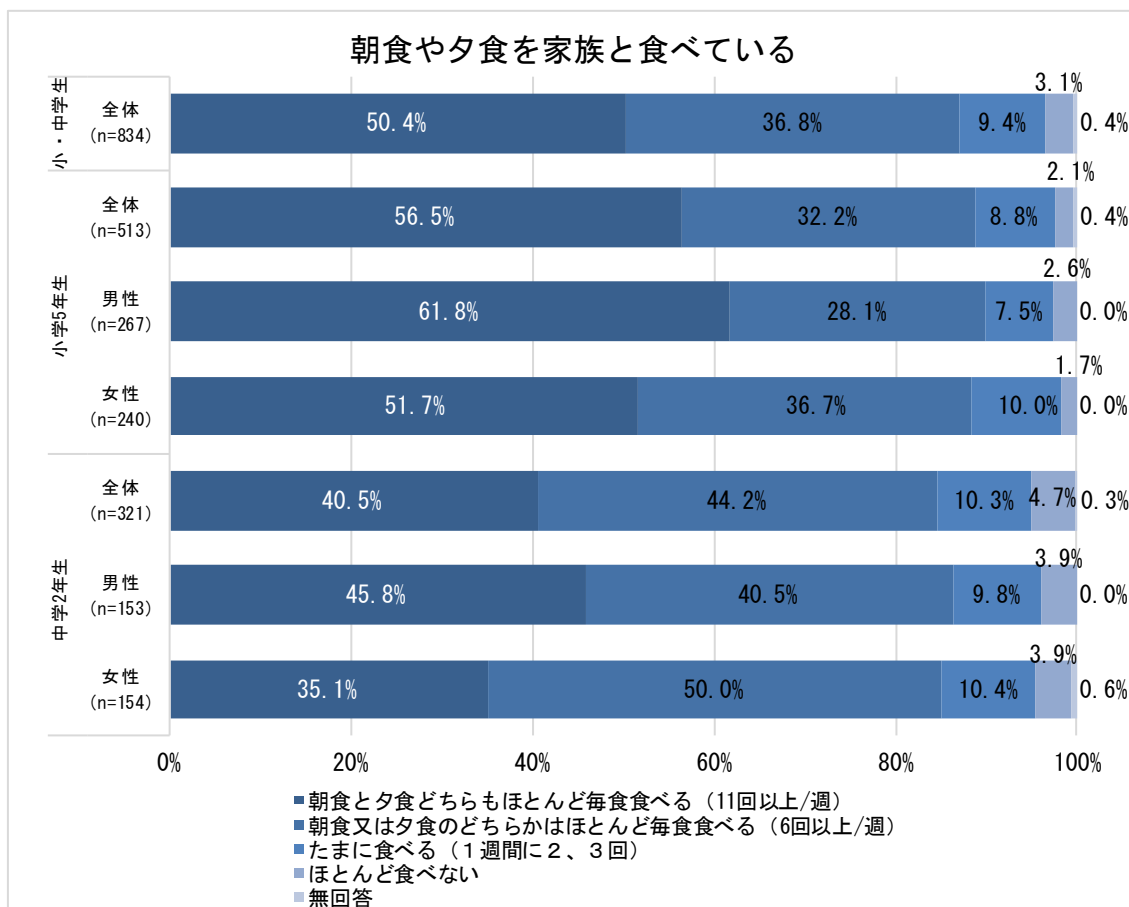


図59



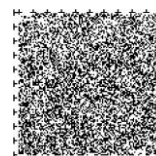
### 「共食」って何？

家族や友人など、誰かと一緒に食事をするを指します。

自分以外の誰かと一緒に楽しく会話をしながら食事をする事は、食事がよりおいしく感じられるとともに、規則正しい生活習慣や、バランスのよい食生活につながります。

また、共食をしている人は、心身の健康状態がよいことが報告されています。

(参考)「食育」ってどんないいことがあるの?~エビデンス(根拠)に基づいて分かったこと~統合版(令和元年10月)(農林水産省)



## (2) 施策の項目

- ・伝統的な食文化の継承
- ・食の楽しさを感じる取組みの推進

## (3) 主な取組み

### 【市民の取組み】

- ・日頃から季節にちなんだ食べ物を意識し話題にします。
- ・地域の特産物や郷土料理を知ります。
- ・季節ごとの旬のものを食卓に取り入れます。
- ・家族、友人、地域の人と食事をする時間をつくります。
- ・地域独自の「伝えたい料理」などを活用して情報発信します。

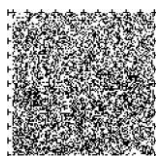
### 【地域の取組み】

- ・畑で収穫した野菜を皆で食べます。(学校、幼稚園、保育園等)
- ・行事やイベントに「行事食」や「郷土料理」を積極的に取り入れます。
- ・仲間と楽しく食事する機会を設けます。

### 【市の取組み】

①家庭料理や行事食等への関心を高めます。

取組み内容	所管課
・各世代において健康保持に繋がる食生活に関する情報の提供(再掲)	地域保健課
・栄養バランスと健全な食生活の啓発や食文化の伝承と共食の重要性、食に対する感謝などへの理解を深める食育動画の作成	地域保健課、学校給食課
・保育園給食において、季節の行事に合わせた行事食を実施	保育幼稚園課
・地域の伝統的な料理を学校給食で提供	学校給食課
・ごはんを中心とした「和食」を学校給食で提供	学校給食課
・学校給食の献立に応じた「放送用資料」を学校に提供	学校給食課
・「和食の日(11月24日)」のチラシを児童生徒に配布	学校給食課
・「和食の日献立」を提供	学校給食課
・市内に伝わる郷土料理や昔ながらの伝統料理、行事食を伝える講座の開催	生涯学習課



②共食の楽しさについて啓発します。

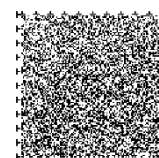
取組み内容	所管課
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の健やかな心身の発達における家族と一緒に食べる共食の大切さに関する啓発</li> <li>・ 楽しく食事をするための工夫や、家族や仲間と一緒に食べる共食の大切さを家庭で実践するための啓発</li> </ul>	こども育成課、 保育幼稚園課 指導課

(4) 指標 (KPI)

指標 (KPI)	現状値 (R4(2022))	目標値 (R16(2034))	備考
食育動画の作成 (再掲)	1本	4本	地域保健課、 学校給食課
郷土料理等の講座回数	2回	2回	生涯学習課
学校給食の献立情報のホームページ、ブログ等での発信 (再掲)	毎日	毎日	学校給食課

(5) 達成目標 (中間評価・最終評価)

目標	現状値 (R3(2021))	目標値 (R16(2034))
伝えたい料理がある市民の割合	59.5%	70.0%
朝食又は夕食を家族と一緒に食べる共食の回数	7.7回/週	11回以上/週



## 目指す方向3 食に対する正しい知識と理解の促進

### 分野3 食の安全・安心

#### (1) 現状と課題

- ◆令和4（2022）年度食育白書では、「できるだけ多くの国民が、我が国の食料・農林水産業・農山漁村の持つ役割や食料自給率向上の意義を理解する機会を持ち、自らの課題として将来を考え、それぞれが主体的に支えあう行動を引き出していくことが重要」とされています。

市民意識調査では、「地元産を優先」は5.1%（前回調査から5.0ポイントの減）となっており、自由記述として、「もっと地元の物を気軽に買えるところがあったらいい」、「子供の頃から久喜市の特産、良い農産物の選び方、なぜ地産地消が重要かSDGsを絡めて教えてほしい」などの意見がありました。消費者に対して、久喜市産農産物の知名度の向上や販路拡大を一層図る必要があります。（P34・図39）

- ◆「学校給食における久喜市産農産物を使用する割合（米を含まない）」は、目標を達成することができました。学校給食における久喜市産農産物の使用について、収穫時期や収穫量を考慮しながら、一層の充実を図る必要があります。（P47・表16）

- ◆令和元（2019）年5月に「食品ロスの削減の推進に関する法律」が公布され、国、地方公共団体、事業者、消費者等の多様な主体が連携し、国民運動として食品ロスの削減を推進することとされており、消費者は、食品の購入や調理の方法を改善すること等により食品ロスの削減について自主的に取り組むよう努めることが求められています。

「食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合」は、全体で約7割でしたが、目標値に達しませんでした。食品ロスの現状やその削減の必要性について、一層の普及・啓発を行う必要があります。（P47・表17）

- ◆小学生の42.1%、中学生の36.4%は、栄養成分表示を見ても参考にしない、見たことがないと回答しています。外食や食品を購入する際に、栄養バランスや塩分量を考慮して取り入れられるよう、食に関する正しい知識を身に付ける必要があります。（P105・図60）

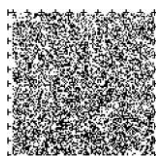
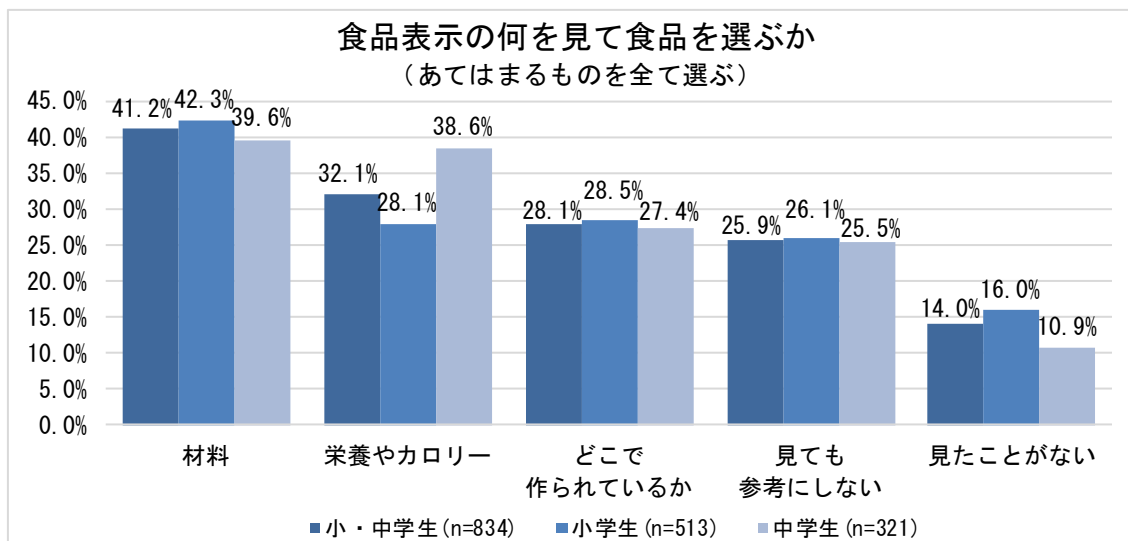




図60



(2) 施策の項目

- ・地産地消の推進
- ・食の安全性に関する知識の啓発
- ・食に関する感謝の念と食の循環に対する理解を深める取組みの促進

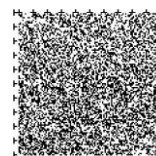
(3) 主な取組み

【市民の取組み】

- ・買い物をする際には地元野菜を優先して購入します。
- ・地域の特産物や郷土料理を理解します。(再掲)
- ・季節に合わせた旬のものを食卓に取り入れます。(再掲)
- ・食べられる量だけ作り、食べ残しをしないようにします。
- ・必要以上に買いためをしないようにします。
- ・家庭菜園などで、自分で栽培したものを食べる喜びを体験します。

【地域の取組み】

- ・地域のイベント等で食べ物を提供する際には、久喜市産農産物を積極的に活用します。
- ・不要な食材を集め、必要な人に提供する活動をします。(フードドライブ)
- ・地元の食材を積極的に使用した料理を提供します。(飲食店)
- ・地元の食材を積極的に販売します。(スーパー)
- ・地元の食材だとわかるよう発信方法(ポップなど)を工夫します。(スーパー)
- ・地域の大人たちは、子どもたちに農業体験のできる機会や環境をつくれます。



【市の取組み】

①久喜市産農産物の使用を促進します。

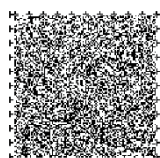
取組み内容	所管課
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食に使用する安全・安心な久喜市産の埼玉県特別栽培農産物生産者に対し、支援を実施</li> <li>・学校給食、保育園給食における、久喜市産農産物の積極的な使用の推進</li> <li>・地産地消推進会議の実施</li> </ul>	農業振興課  学校給食課、保育園課 学校給食課

②食品ロスの削減を促進します。

取組み内容	所管課
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人や社会・地域・環境に配慮した消費行動（エシカル消費）の普及や充実した消費生活相談体制の普及</li> <li>・食品ロス削減のため、フードポストの設置及びフードドライブの実施</li> <li>・市ホームページ等を通じた、食品ロスの現状やその削減の必要性の周知、啓発</li> <li>・地産地消の推進を図るため、久喜市農産物直売所ガイドマップの配布</li> <li>・地産地消の推進を通じて、フードマイレージ削減に繋げる情報の発信と周知、啓発</li> <li>・食の安全や安心に関する正しい知識と実践に向けた情報提供</li> <li>・食に対する感謝の念を醸成するため、野菜の収穫体験事業の実施</li> <li>・収穫の楽しさや嬉しさを体験するための野菜栽培の実施</li> <li>・食べ物への興味や関心を高め、食事（食材）を大切にしようとする気持ちを育てるための啓発</li> </ul>	市民生活課  資源循環推進課  資源循環推進課  農業振興課  地域保健課  地域保健課  子育て支援課、こども育成課  保育園課 保育園課

(4) 指標 (KPI)

指標 (KPI)	現状値 (R4(2022))	目標値 (R16(2034))	備考
埼玉県特別栽培農産物生産者への支援者数 (野菜・米)	26 人	26 人	農業振興課
学校給食における久喜市産農産物の使用割合 (米を含まない)	28.7%	33.5%	学校給食課
久喜市農産物直売所ガイドマップ配布箇所数	10 箇所	14 箇所	農業振興課



(5) 達成目標 (中間評価・最終評価)

目標	現状値 (R4(2022))	目標値 (R16(2034))
学校給食における久喜市産農産物を使用する割合 (米を含まない)	28.7%	33.5%
食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合	73.7%※	80.0%

※現状値は、R3(2021)の数値

